

2021年度 事業報告 (案)

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2021 年 4 月 1 日至 2022 年 3 月 31 日

<目 次>

I. 事業の概要

II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・
広報に関する事業
 - 1-1 OPENcafé
 - 1-2 ECOもんツアー
2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に
関する事業
 - ホームページによる情報発信とネットワークの強化
3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネット
ワークづくり、情報基盤の整備に関する事業
 - 1-1 水田など里地里山農空間と生物多様性の保全（水田マコモダケ耕作と拡大）
 - 1-2 大阪府内の生物多様性調査活動（インターン支援事業）
 - 1-3 天神祭ごみゼロ大作戦と給水スポット普及（資源循環社会へ市民参加促進事業）
 - 1-4 再生バイオマス事業研究（里山倶楽部）
4. ネットワーク
 - OPEN が加盟する団体

III. 総会の開催状況

IV. 理事会の開催状況

V. 会員状況

I. 事業の概要

2021 年度の事業概要

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として3つの事業を多様な主体と実践し、事業化に向け検討を継続し、市民参加を促すことでした。

しかし、コロナウィルスの蔓延は収まらず、大阪では医療崩壊という危機的な社会状況の中で活動は制約されました。

2年余社会経済活動が停滞していましたが、待ったなしの気候変動による環境悪化は加速しています。ネットワーク団体が取り組んできた1年間の実践は下記のとおりです。

一つには、生物多様性の宝庫である耕作放置水田など農空間を復活させる取り組みです。2017年から大阪自然環境保全協会と連携し、大阪府内の耕作放置田畑でマコモダケ（在来イネ科マコモの肥茎）の耕作とその普及の取り組みを継続しました。マコモ耕作の旧母田（能勢町山内）は、地権者の急逝に伴い2021年3月に返却したため、新たな母田を探し、茨木市泉原地内で農地の借用を認められ、その覚書を結びました。また、事業参加促進等の協議の場をつくり、次年度の活動につなげました。

二つには、大阪府能勢町天王地区での「スマート農業による中山間地農業振興と関係人口・交流人口の増加」の実証実験の途上に担当の中崎義己理事が急逝し、当会はこの事業をやむなく断念し、情報システム・ソフトウェア開発の（株）アルケミックス、天王ナチュラルファームとの2団体で進められることとなった。休耕田を開拓してマコモダケ栽培は継続し、マコモダケだけでなく、葉等の商品開発を進め、試作品づくりの支援をしました。マコモダケ栽培状況は、当会のホームページ上にマコモダケ Facebook で逐次情報発信しました。

三つには、資源循環型活動と協働による活動です。

天神祭が2年続きの境内内神事のみとなり船渡御、奉納花火は中止となり、露天営業も中止となり「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」では、ごみゼロリバー大作戦として、河川敷公園と川中のごみ拾いイベントを実施し、ペットボトル削減として、Osaka Metro 株式会社の協力により地下鉄天満橋構内で冷却給水機の実演とアンケートを実施しました。②飲料水ペットボトルの削減とマイボトル持参の普及活動として、Refill 大阪では、大阪府下2か所、市内2か所で、水道直結式冷却給水機の実演とアンケート等を NPO 水政策研究所と共同行動をしました。また、大阪府マイボトルパートナーズからの情報発信と参加協力をいただきました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとして引き続き、行政や事業者、市民協働を進めました。

II 事業の実施状況

1. マコモダケ水田耕作など里山農空間・生物多様性保全事業

「事業概要」に記述のように、2021年度は、マコモダケ水田耕作のための新しい母田を探すこととし、独自の耕作活動は行わなかった。しかし、母田探しと新母田の賃借覚書の締結のほか、私たちのマコモ耕作の元株を入手した豊能町大円（おおまる）でのマコモ株の移植と葉っぱ収穫や、マコモ耕作普及のためのミーティング・商品開発紹介の開催、富田林市議からの依頼を受けたマコモ耕作のPRなどの活動を行った。

予 算 50,000 円

執行額 0 円

残 額 50,000 円

2. マコモダケ製品開発への支援事業

マコモダケの効能（デドックス、抗酸化作用等）を活かしたスキンケア商品開発を進め
新年度からは、販売できるまでになりました。マコモダケの認知度を高めるべくホームページ
情報発信（Facebook）を定期的に更新しました。

予 算 12,000 円

執行額 12,000 円

残 額 0 円

5. 天神祭ごみゼロ大作戦 2021 と給水スポット普及活動

【事業の目的】

地球温暖化を防止するための個人の活動として、資源循環の体験の場をひろめていく。一人一人が使い捨てをやめ限りある資源を次の世代に引き継ぎ、大量消費をやめること。日常に発生するごみ問題から環境を良くする活動を通じてコミュニケーション力が深まり、資源を大切にすることが人の命も大切にしている気持ちに繋がり、地域資源として公共水道の大切さの再認識と積極的活用を促す。給水スポットは、水政策研究所と共同で実施した。

事業担当者 西村、岡見、松井、山口

【実施内容】

①クリーンリバー大作戦 2021

日 時 7月24、25日

開催場所 大川沿い公園一帯、地下鉄天満橋駅構内

花火会場の河川敷でのごみ拾いと船渡御が行われる大川をサップに乗りごみ掬いを1日型で実施した。大阪メトロの協力により最寄り駅「天満橋」構内で、水道局の給水機「水色スイッチ」を実践。

使用機種は大阪市水道局の移動式「水色スイッチ」を使用。

成果 ボランティア参加者 55人 7月25日大川ごみ拾い・掬い

7月24、25日 給水スポット

水辺のごみ 50.83kg 川中のごみ 700袋 5袋

給水スポット 2日間で140人利用。アンケート回答者は700人

②大阪府と兵庫県にまたがる大阪空港に隣接する「豊中・伊丹クリーンランドひろば」での給水体験の実践

日 時 8月22日

開催場所 豊中・伊丹クリーンランドひろば

給水機 RefillJapanの機種

成 果 大阪での独自事業として実施し、100人利用、クリーンランドの運営委託NPOとの連携ができた。

③2021年エコ縁日

日 時 10月30日

開催場所 花博記念公園

成 果 水道局の冷水給水機「水色スイッチ」でマイボトル普及を PR。 120 人利用

④大阪府柏原市 ～第 19 回柏原芸術祭～

日 時 11 月 3、6、7 日の 3 日間

開催場所 カタシモワイナリー、ヤマギシ電機店 2 会場で実施

給水機 RefillJapan の機種

成 果 大阪府下で初めて実施、街ぐるみ芸術祭として RefillJapan の社会実験として実施。給水機は 304 人利用した。

⑤Refill 会議・シンポジウム

日時 3 月 18 日

開催場所 東京主婦会館

参加地域団体 (zoom 含む 8 地域)

大阪からの参加者 岡見 シンポジウム WEB 2 人 西村、山口

【事業実施の成果】

複数地域で実施することができた。水道局の給水機の利用が可能になった。大阪府マイボトルパートナーズとの情報共有や実践ができた。

【事業費】

予 算 50,000 円

執行額 35,000 円 (8/22 機器リース料と運搬費は水政策研究所と折半)

収 入 10,000 円 (報告書作成費、RefillJapan より)

残 額 35,000 円

6. 木質バイオマスエネルギー活用事業

廃棄物処理されている大阪市内の公園や街路樹などの木質資源を燃料加工しエネルギー活用することで、処理費の削減と共に化石燃料代替による二酸化炭素の削減を図ることを、大阪市公衆浴場組合との協働事業にむけ、実態調査と建設局等の話し合いを進めようとしたが、コロナウィルス蔓延による行動自粛のため、交渉含めて活動できなかった。

予算額 20,000 円

執行額 0 円

残高 20,000 円

OPEN が加盟する団体 (加盟順)

1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境 NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会に NPO として参加

2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に 2004 年に設立。

3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

4. 生物多様性かんさい

COP10 を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

5. 大阪ごみ減量推進会議 (2011 年 10 月 1 日設立)

大阪府民環境会議の 3 R 分野のネットワークおよび活動の継続・強化を目指して参画。

2025 大阪・関西万博におけるごみゼロの実践に向けて、博覧協会事務局と折衝を進めている。

6. 大阪びんリユース推進会議（2014年2月19日設立）

脱プラスチック活動として、給水スポット普及活動をすすめている。

7. 社会福祉法人大阪ボランティア協会

8. NPO 法人 エコネット近畿

9. 関西環境教育学会

2020年、能勢天王地区における生物多様性の調査研究をしたインターン生（神戸女学院大生）の報告書を掲載、次世代の環境教育の普及に努める役割。

III. 総会の開催状況

第18回通常総会の開催

2020年6月26日

ほぼエコ Café & Gallery NAZ（吹田市千里山東 関西大学前）

参加者：16人（内委任状 8人）

IV. 理事会の開催状況

第1回 5月18日 / ZOOM

第2回 6月4日 / ZOOM

第3回 6月26日 / ほぼエコ Café & Gallery NAZ

第4回 9月17日 / ZOOM

第5回 12月21日 ほぼエコ Café & Gallery NAZ

第6回 2022年3月11日 ZOOM

V. 会員状況

正会員	団体	15
正会員	個人	7
賛助会員	団体	0
賛助会員	個人	2

役名	氏名	所属
理事長	木内 功	個人会員・関西環境教育学会
副理事長	大塚 憲昭	特定非営利活動法人里山倶楽部
専務理事	山口百合子	特定非営利活動法人 グリーンコンシューマー大阪ネットワーク
理事	松本 一美	特定非営利活動法人 One World for Children
理事	山崎 博文	Rびんプロジェクト
理事	岡 秀郎	公益社団法人大阪自然環境保全協会
理事	西村 優子	大阪びんリユース推進協議会
理事	岡見 厚志	Worldseed
監事	松井 一郎	個人会員